

# 居住支援における地域連携 そこから目指す地域共生社会



2023年度  
一般社団法人全国居住支援法人協議会主催  
居住支援研修会

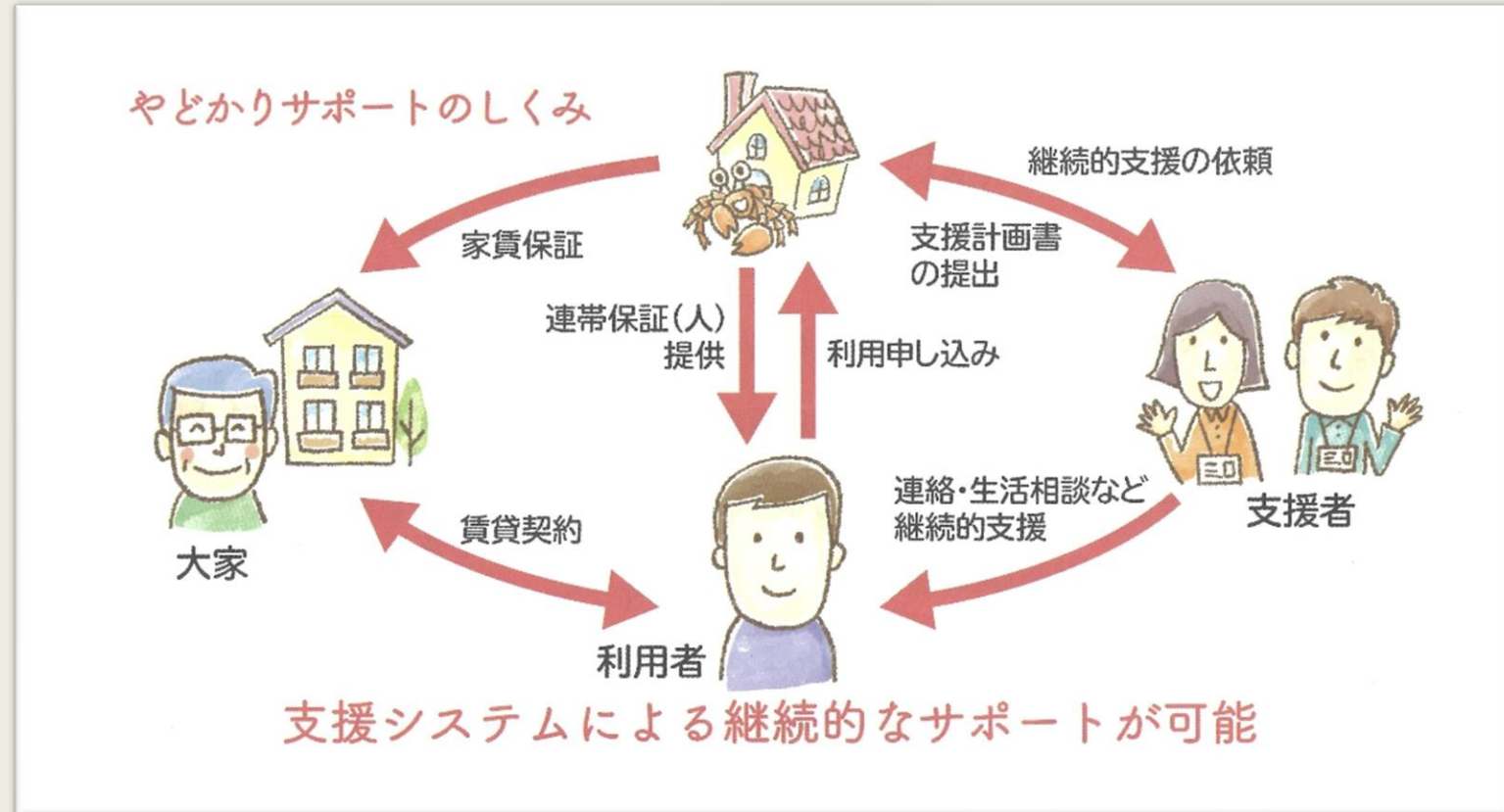
NPO法人やどかりサポート鹿児島  
理事長 芝田 淳

地域ふくし連帯保証



## 「地域ふくし連帯保証」とは？

- やどかりは「**地域ふくし連帯保証**」（**地域ふくし連携型連帯保証提供事業**）を鹿児島県全域で実施している
- 最大の特徴は『**支援者**』を配置すること
- 理念は「つながりと保証の提供」
- 経済的審査は行わない
- 地域で福祉に携わっている方々に『支援者』となっただき、利用者の見守りや継続的支援を行ってもらうことで、やどかりが『連帯保証』の提供を行う
- 利用料  
2年間で2万円
- 対象者  
すべての住宅確保要配慮者



# どんな方が利用しているか

- 利用者は設立の経緯から、障がい者・ホームレス生活者が多い
- 2017年度に居住支援法人の指定を受け、高齢者も支援の対象に加えた。

設立から15年経過し、利用者も高齢化している。

利用者属性・年代別グラフ

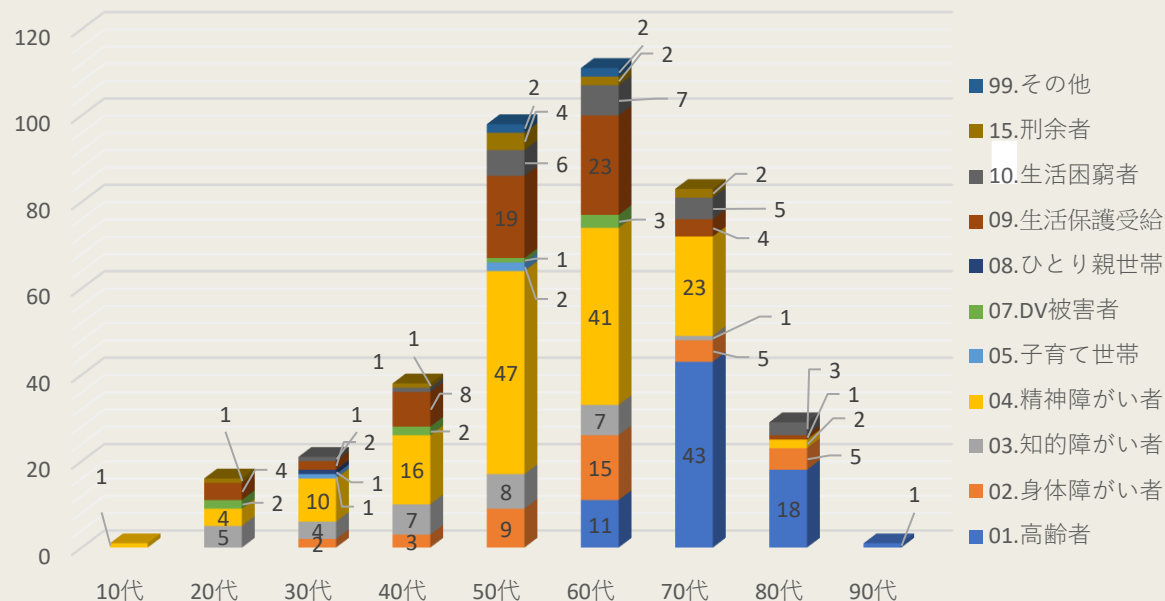
## 利用者数（2023年3月末現在）

地域福祉連帯保証利用者数

**398人**

前年比+35人 9.6%増加

2022年度の利用者は昨年度の363人から35人増え、398人となり9.6%の増加となりました。障害者や、高齢の方が増加しています。



表だと障がい者が多いが、グラフを見ると高齢者でかつ障がいを持つ利用者が多く、全体として利用者の高齢化がわかる。

高齢者	障がい者(精神、身体、知的)	生活保護受給	生活困窮者	DV被害者	刑余者	子育て、ひとり親世帯	その他	合計
73	215	61	23	8	10	4	4	398

## 支援者ってなに？

- 定義：利用者の日常生活の見守りを行い、相談支援に応じる専門的知識をお持ちの個人や団体
- 『支援者』には法的な責任は生じません。連帯保証人として責任を負うのはあくまでやどかりです。
- 2023年3月31日時点での支援者186機関・者
- 具体的な実務としては
  - ①利用者と一緒に面談を受ける
  - ②面談時に「支援計画書」を提出
  - ③利用が決定した際には、利用者の日常生活の見守り、及び相談支援を行う
  - ④2年ごとの利用更新の際にも面談・支援計画書の提出（支援計画書はケアプランの援用可）
  - ⑤利用者に問題が生じた場合には、やどかりとともに対応

### 支援者実績団体の一部ご紹介

鹿屋市地域包括支援センター，中種子町地域包括支援センター，知名町地域包括支援センター，鹿児島県北薩地域振興局保健福祉環境部，鹿児島県地域生活定着支援センター，日置市福祉事務所，社会福祉法人薩摩川内市社会福祉協議会，社会福祉法人奄美市社会福祉協議会，社会福祉法人南さつま市社会福祉協議会，医療法人共助会三州病院，医療法人敬愛会玉里病院，一般社団法人Saa・Ya，一般社団法人そーしゃる・おふいす，社会福祉法人たちばな会地域生活支援センターオレンジの里（霧島市），社会福祉法人南恵会，あおぞらケアグループ

# 市町村や社会福祉協議会等との協定

民間団体との協定締結	公営住宅・地方公共団体との協定締結	
<p>地域の居住支援について「支援者」としての協力を約する協定を締結</p>	<p>公営住宅における保証提供についての協定締結</p>	<p>地域全体の居住支援の発展に向けた協定締結</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ あおぞらケアグループ (2019年1月)</li> <li>➤ 社会福祉法人落穂会 (2019年3月) ※地域を限定した協定締結</li> <li>➤ 瀬戸内町社会福祉協議会 (2019年10月) ※自治体との3者間協定</li> <li>➤ 済生会鹿児島地域福祉センター (2019年12月)</li> <li>➤ <b>社会福祉法人南恵会 (2020年2月)</b> <b>【居住支援法人】</b></li> <li>➤ 鹿屋市社会福祉協議会 (2020年9月)</li> <li>➤ 薩摩川内市社会福祉協議会 (2021年4月)</li> <li>➤ 垂水市社会福祉協議会 (2021年5月) ※自治体との3者間協定</li> <li>➤ <b>社会福祉法人たちばな会</b> <b>住まいサポートセンター霧島 (2021年6月)</b> <b>【居住支援法人】</b></li> <li>➤ 知名町社会福祉協議会 (2021年6月) ※自治体との3者間協定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 鹿児島市 (2020年10月)</li> <li>➤ さつま町 (2021年2月)</li> <li>➤ 薩摩川内市 (2021年3月)</li> <li>➤ 鹿児島県 (2021年12月)</li> <li>➤ 鹿屋市 (2022年1月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 瀬戸内町 (2019年10月) ※社協との3者間協定</li> <li>➤ 垂水市 (2021年3月) ※社協との3者間協定</li> <li>➤ 知名町 (2021年6月) ※社協との3者間協定</li> </ul>

## 奄 美 新 聞

2019年(令和元年)10月29日 火曜日



※掲載承諾済み

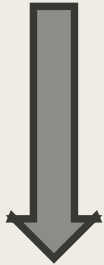


## 自分ではできないことをできるようにする連携

自分一人では解決できない大きな課題がある



あきらめる



自分一人で  
しようとせずに  
地域に助けを求める  
なかまを求める  
姿勢



一般社団法人  
鹿児島県居住支援  
ネットワーク





# 一般社団法人鹿児島県居住支援ネットワーク

2021年12月設立

会員は居住支援法人に限らない。

社会福祉法人南恵会 居住支援法人南恵会（居住支援法人）  
社会福祉法人たちばな会 住まいサポートセンター霧島（居住支援法人）  
NPO法人やどかりサポート鹿児島（居住支援法人）  
一般社団法人サツマスタ（居住支援法人）  
社会福祉法人瀬戸内町社会福祉協議会  
社会福祉法人鹿屋市社会福祉協議会  
一般社団法人toitotoi  
一般社団法人パーソナルサービス支援機構（若者・ひきこもり支援）  
合同会社 ANTHOPPER（障害者支援，自立生活援助）  
スクエアシステム株式会社（不動産事業者）  
公益財団法人慈愛会 地域活動支援センターひだまり（障害者支援，自立生活援助）  
一般社団法人鹿児島県労働者福祉協議会（労働者団体）  
他

## 鹿児島シェルターネットワーク構築事業

- ① 調査を実施
  - 対象  
市町村  
生活困窮者自立支援事業
  - 調査内容
    - ・県内の一時生活支援事業・民間のシェルターの状況
    - ・シェルターの需要
    - ・行政からの依頼の状況
- ② シェルターネットワークの構築
  - 空き状況の共有
  - 需要と供給の把握・統計

「その日の屋根」が確実に提供できる鹿児島県を目指して

今後の居住支援は，社会資源を作る・増やすという段階から，「地域の居住支援ニーズを充足する」ことを目指す段階に進むべき。そのためには，都道府県単位の「居住支援ネットワーク」が重要になるのではないかと。

居住支援法人のみのネットワーク，居住支援法人に限らないネットワーク，双方考えられる。

こうしたネットワーク組織が，都道府県単位の居住支援に関する事業を実施するようになることが考えられる。

居住支援は「横ぐし」、隙間を埋める連携

居住支援は分野横断の「横ぐし」

不動産

福祉

キャッチボール

握手

腕を組む

肩を組む

高齢者

障害者

ひとり親

外国人

刑余者

DV被害者

行政・民間の「縦割り」を超えて

高齢者，障害者・・・「者」別支援を超えて

でも，必ず，隙間は生まれる。そのすき間を埋めるのが居住支援？

それぞれがそれぞれの分野から「一歩ずつ踏み出す姿勢と努力」が必要

# 当事者主体の居住支援



# 「やどかりライフ」という暮らし方の提案

## 「やどかりライフ」という「暮らし方」

「やどかりライフ」とは『互助をする暮らし方』の事です。やどかりは、互いに助け合う暮らしを提案します。

### やどかり？

NPO法人やどかりサポート鹿児島  
の事です。やどかりでは、住宅の  
連帯保証をしています。

### ごじよ 互助？

お互いに助け合うこと

NPO法人やどかりサポート鹿児島 〒890-0056 鹿児島市下荒田4丁目30番5号レジデント下荒田403号  
TEL. 099(800)4842 FAX. 099(800)4845 URL: <https://npo-yadokari.jp>

私たちは、身寄りがない・身寄りが少ないもの  
同士が互いに助け合って暮らす、**仲間**です。

いつでも  
見学に  
来て  
ください！

働きながら  
参加してる  
人もいます

## 何をしているの？

- イベント企画・開催 → これまで、季節に合わせて「雑煮会」「お花見」「花火を見る会」を企画し、開催してきました。
- お部屋のお掃除 → 足腰が痛くて片づけが出来ない仲間のお部屋の掃除をして、助け合うこともあります。
- 入院の時の支援 → 入院の時の荷物の持ち運び、お見舞い。手術時の身の周りのお世話。退院時のお迎えを仲間同士で行っています。一番うれしかったのは心配してくれる人がいたことだと言った方もいました。
- 買い物の手伝い → 足をケガして外出できない仲間の買い物を手伝ったりもしています。

**週に1回やどかりサロンにてイベントを行います。参加は自由です。**

※会費はありません(イベントによっては参加費が必要です) ※イベントへの参加や活動は強制されるものではありません。



# やどかりライフの参加者と取り組み

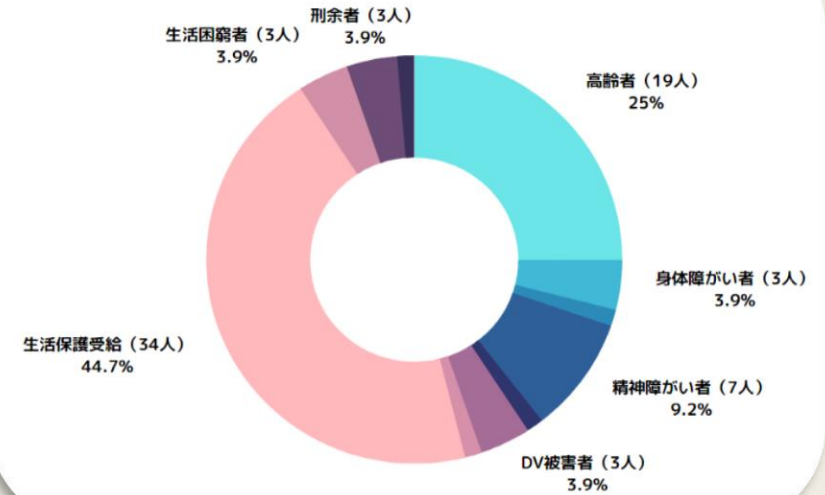
## やどかりライフ参加者数

107人

前年比+76人 245%増加

支援者がいない人同士が共に支え合う「やどかりライフ」。参加者は107人となり、昨年度の31人から245%増加しました。2022年度は参加者のクリスマスイベントや、お餅食べよう会など居場所も全83回開かれました。

## やどかりライフ2022年度新規参加者属性



## やどかりライフ参加者が集まる居場所での様子



## やどかりの居住支援で起きていること

- 携帯電話を持っていない人があるマンションに入居した。  
同じマンションに住む住民が、やどかりからの伝言を行ってくれた。
- 土地勘のない人があるマンションに入居した。  
同じマンションに住む住民が、やどかりまで同行してくれた。
- 70代男性，認知症の疑い。  
認知症のため，諸手続きが自分でできるか疑問があった。  
同じマンションに住む住民が，市役所同行，銀行同行，通帳の作成を行った。
- 60代男性，15年以上ホームレス生活をしていた。  
ついに生活保護申請を行い，やどかり利用で入居。  
同じマンションに住む住民が，マイナンバーカードの作成の手伝いを行い，携帯ショップに同行して，スマホを持つことができた。スマホの使い方も教えている。  
(ワクチン接種の申込みも，同じマンションに住む住民のスマホで行った。)

当事者主体の  
居住支援

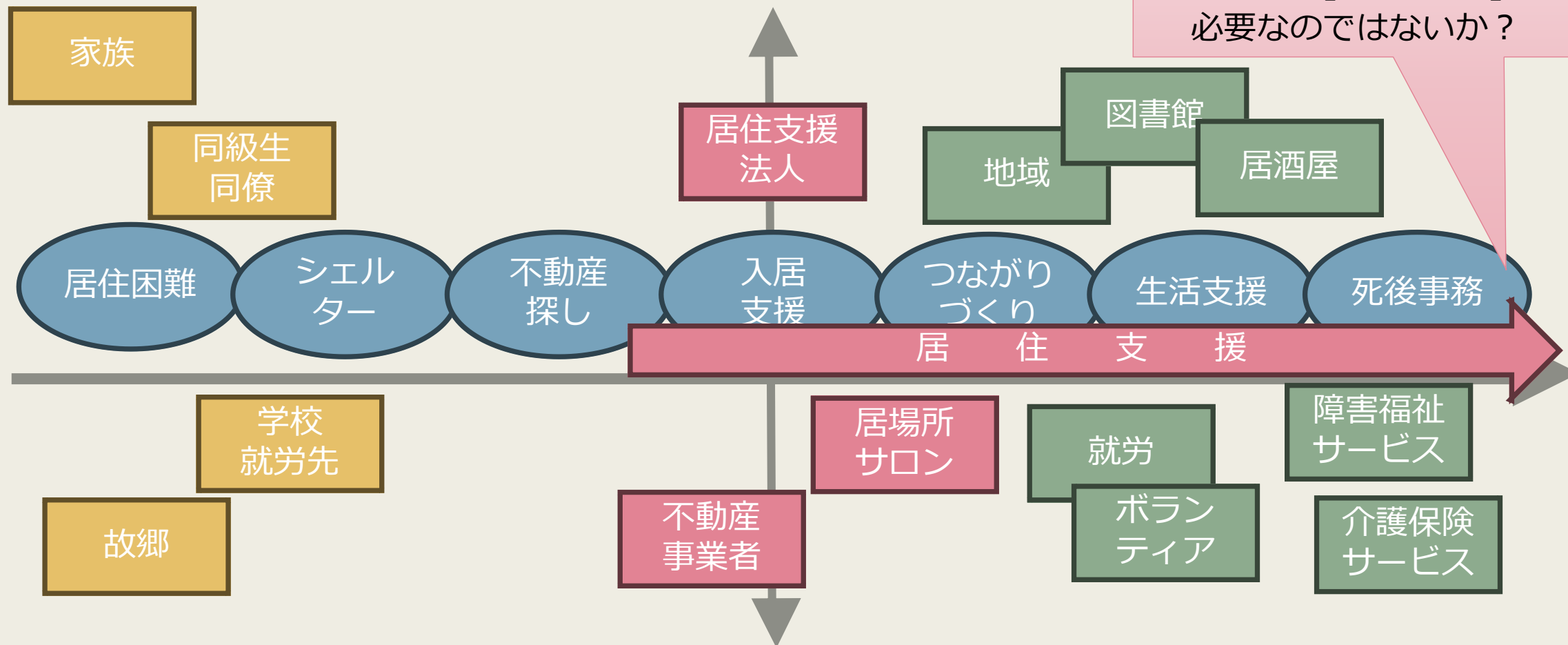




「やどかりライフ」参加者による  
同行支援の様子  
左側が先輩，右側が新規入居者  
銀行手続きに同行している



## 当事者との連携 ～当事者の時間軸と空間軸～



確かに居住支援は本人の「ゆりかごから墓場まで」に関係する  
でもそれは居住支援が、本人のすべてを知り、すべてを丸抱えするというわけではない  
本人には、我々からは見えていないずっと広い空間があって、その中のひとつとして居住支援がある  
居住支援は、謙虚に、でも、本人にとって「点」ではなく「線」となることを目指す

【実験的に始めている事業】

つながるあんしん事業





# 「保証」に関する議論の前提

- ◆ 保証の提供という課題をどうすればいいか？と対策を考えるにあたって、その前提として、この問題をどのようにとらえるか？を確認しておきたい。

『身寄り』問題という名詞はNPO法人つながる鹿児島が作った言葉です(^\_^)

- ◆ まず、『身寄り』問題とは？

人が自分のことを自分でできなくなるとき、誰が援助するのか？

この問題について、わが国では、多くの場面で「**家族がするのがあたりまえ**」とされていないでしょうか？

赤ちゃんの時、けがをしたとき、病気になったとき、障害を負ったとき、介護が必要になったとき、そして死んだとき、まさに生老病死のすべての場面において「**家族による支援**」が当然とされていないでしょうか？

さらに、わが国には、「連帯保証人」「身元引受人」「身元保証人」といった慣習があります。

しかも、就職するとき（就労）、居宅に入居するとき（住居）、病院に入院するとき（医療）、施設に入所するとき（介護）といった**いのちと暮らしに関わる根幹的な部分にこそ「連帯保証人」や「身元引受人」が必要**とされています。

そのため、『身寄り』がない人たちが、「**例外**」と扱われ、様々な場面で**排除**されたり**差別**されたりしているという問題が生じています

これが『身寄り』問題です。

とても、いびつな社会になってしまっていますよね  
根本は、『身寄り』がないを「例外」としているところにあります

## ◆ 「家族による支援」のとらえなおし

誰でも「家族による支援」が提供されるということを前提とした社会システム

「家族による支援」が水か空気のように必ずあるものと思い込まれ、そこに疑義を挟んでこなかった文化

これからは『身寄り』がないことは「スタンダード」なことであるとの意識転換が必要

これからは「家族による支援」「地域による支援」「社会による支援」の並列化・【役割分担】が必要

## ◆ 身元保証とは「家族による丸抱え」を契約に埋め込む装置である

家族がいる場合はこれまでどおり家族が身元保証，家族がいない場合は・・・

という「二分論」的な考え方をしたいを変える必要がある

目指すべきは、

# 家族も含めた「家族」「地域」「社会」による【役割分担】

お父さんが緊急入院  
娘さんが来られました  
「この書類にサインしてください」と保証人にするのではなく  
「あなたにはなにができて、なにができませんか」と尋ね、  
「娘さんにはこれこれをお願いします。私はこれをします。市役  
所があれをします。」と【役割分担】をする  
そんなイメージです

身元保証人がいない方について  
「なにかあったらどうするんだ!？」  
言われたこと，言ったこと，ありません  
か(^\_^;)   
「なにか」ではなく，個別具体的に起き  
るであろうことを検討し「役割分担」を  
すればいいのです

## 『身寄り』がない人，孤立している人を成年後見制度や契約のみで支えることの【副作用】

### ①本人を「支援される側」に固定してしまう。

成年後見制度を利用すると，本人は【被】後見人，【被】保佐人などと呼ばれる。

制度上「支援される側」とされ，「支援する側」になる可能性がない。

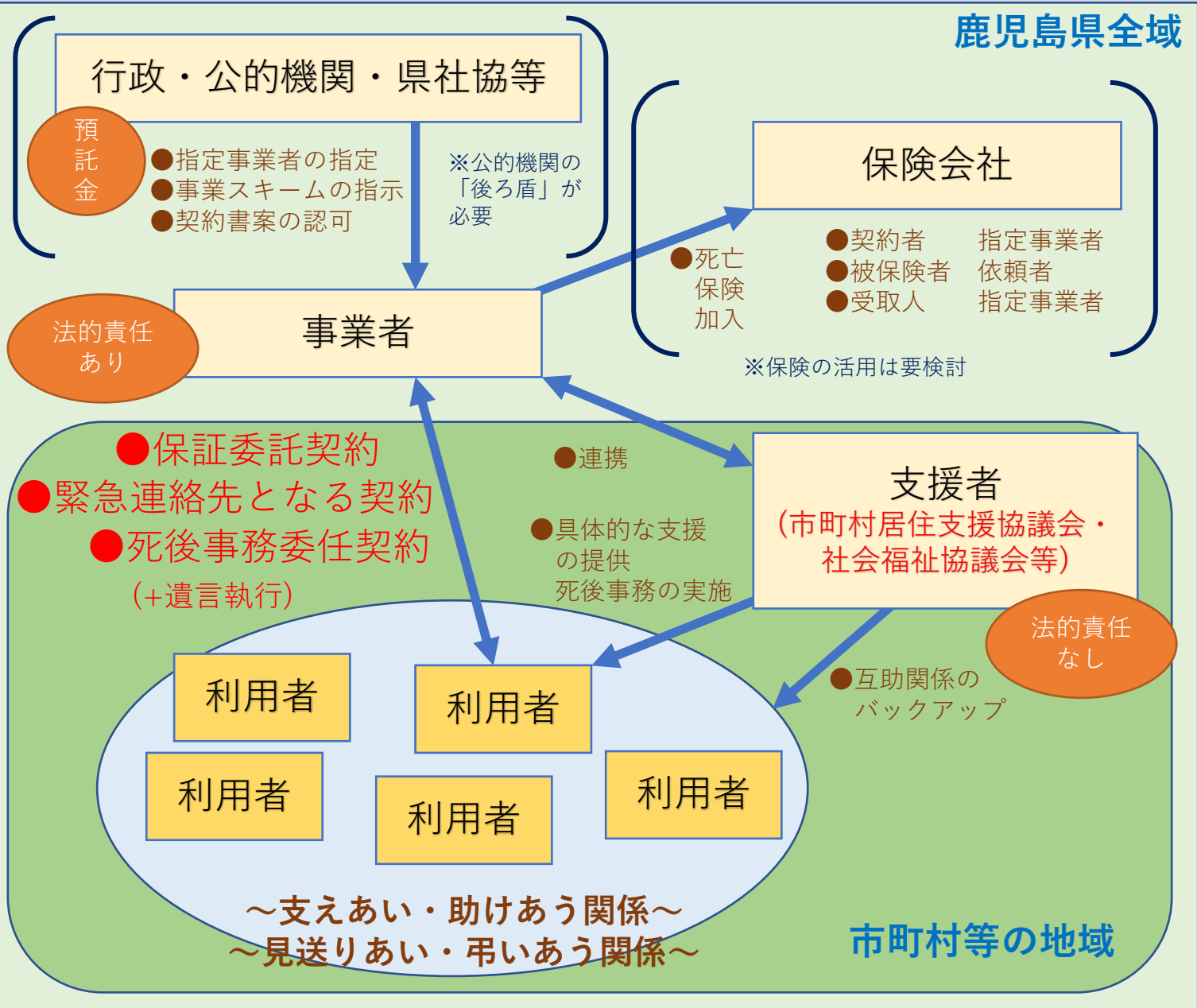
### ②本人の「孤立」を固定してしまう。

成年後見制度を利用すると，成年後見人が身元保証・死後対応等の問題を「ひとりで」すべて解決してくれる。

本人は，成年後見人以外とつながる必要がなくなる。

その結果，本人が施設入所しても「遊びに来る人」はおらず，本人の最期にあっても本人を見送り弔う人は・・・





- プラットフォーム
- 行政
  - 居住支援協議会
  - 社会福祉協議会
  - 不動産事業者
  - 大家
  - 町内会等
  - 弁護士・司法書士
  - 介護事業者
  - 遺品整理事業者
  - 社会福祉法人
  - 葬祭業者
  - 権利擁護センター
- 連携

社会的孤立が深化している  
単身高齢者が増加している  
『身寄り』のない人が増えている  
血縁（家族による支援）、地縁等が  
漸弱化している  
居住・医療・介護・死後の課題等、  
様々な「保証機能」が必要とされて  
いる



当事者の互助を基盤に、  
事業者が契約の相手方となり  
地域の支援者と連携して、

- 賃貸住宅入居時に「連帯保証人」となる（「地域ふくし連帯保証」：既存事業）
- 入院・入所時に「緊急連絡先」となりサポートを行う（連帯保証人にはならない）
- 入院・入所時も地域の人がお見舞いする、遊びに行く等、「支えあい・助けあう関係」をバックアップする
- 死亡時には、事業者と支援者が、葬儀・火葬・埋葬・残置物の撤去等の死後事務を確実にを行う
- 地域の人どうしが互いに「見送りあい・弔いあう関係」をバックアップする

## 互助を基調とした保証機能提供と死後事務

「利用」ではない  
サービスの提供ではない

- ▶ 互助会に加入すること  
つながるファイルを完成させることを条件に  
当事者は「つながるあんしん事業」に「参加」することができる
- ▶ 「つながるあんしん事業」への参加と同時に、NPO法人やどかりサポート鹿児島と「入院・入所にあたって緊急連絡先となる支援に関する契約」と「死後事務委任契約」を締結する  
必要に応じて、遺言を作成する

- つながるあんしん事業は、『身寄り』がない当事者が地域と「つながる」ことで、病気になったとき、死んだとき等『身寄り』がないことで支障が生じやすい事態に陥っても地域のなかまや支援者が適切に対応できる体制を自ら作り出し、「あんしん」して日々の生活を営むことができるようにすることを目的とする事業です。
- また、つながるあんしん事業は、『身寄り』のない当事者が地域の中で役割を持ち、地域に貢献することを目的とする事業でもあります。
- つながるあんしん事業に参加する『身寄り』のない当事者は、一定の地域や属性ごとに互助会を設立し、当事者どうしで、なかまが入院をしたりけがをしたりして困っているときには互いに支えあい・助けあい、なかまの最期にあたっては互いに見送りあい・弔いあいます。
- つながるあんしん事業に参加する『身寄り』のない当事者は、「つながるファイル」を書き、その内容をなかまに託すことで、『身寄り』がないことで支障が生じやすい事態に陥っても困らないように備えを行います。
- つながるあんしん事業に参加する『身寄り』のない当事者は、当事者どうしの支えあいでは不足する部分を補うために、原則として、事業者と「緊急連絡先となる契約」及び「死後事務委任契約」を締結します。
- 支援者は①当事者が当事者間の互助、支えあい・助けあい・見送りあい・弔いあいがスムーズにまた活発に行うことができるようにサポートし②当事者がつながるファイルを書く作業をサポートし③緊急連絡先となる契約や死後事務委任契約に基づいて事業者が行うこととされている事務や支援を行います。

# まとめとしてのご提案



## ◆ 居住支援をテーマとした「水平」な会議を開催

cf: 「居住支援ネットワーク会議」 (大分県)

必ず、民生委員・地域包括支援センター・権利擁護センター (成年後見センター) ・地域づくりに関するNPO等に参加してもらう

## ◆ 居住支援に関係する機関によるネットワーク組織を構築

cf: 福岡県居住支援法人協議会, 熊本県居住支援法人連絡会,  
一般社団法人鹿児島県居住支援ネットワーク

都道府県単位で居住支援に関するネットワークを構築することで, 地域の居住支援ニーズを受け止めるだけでなく, 様々な効果が期待される

## ◆ 当事者の居住支援への参加, 互助会の設立支援

「参加支援」「支える側と支えられる側の循環」等, 地域共生社会の理念を居住支援のステージで実現

【実験的に始めている事業】

誰かのそばに，誰かがそばに

『孤独死ゼロアクション』





## はじめに

単身世帯が増加する日本では、今後  
**「孤独死がさらに増加するだろう」**と予想されています。  
でも、あきらめてしまっていないのでしょうか。  
孤独死は、人の死、人の尊厳にかかわる問題です。  
少なくとも私は、身近な人に孤独死してほしくないです。  
さみしい思いでこの世を旅立ってほしくはないんです。

私たちやどかりは、本気で孤独死をなくすことを目指して、  
つながることで孤独死をゼロにする社会を創造するために、  
**「孤独死ゼロアクション」**を開始します。

一人で亡くなってしまう人を減らすため、困った時に  
“助けて”と声をあげられるつながりを作ります。

あなたも“孤独死ゼロアクション”に参加しませんか？

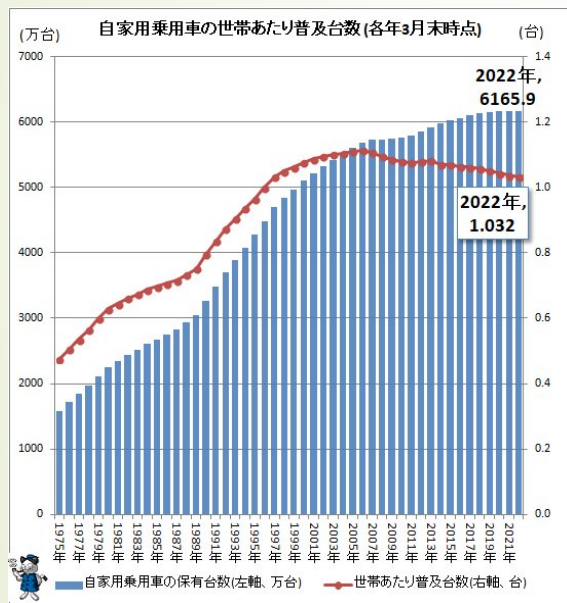




# 交通事故死者数の例

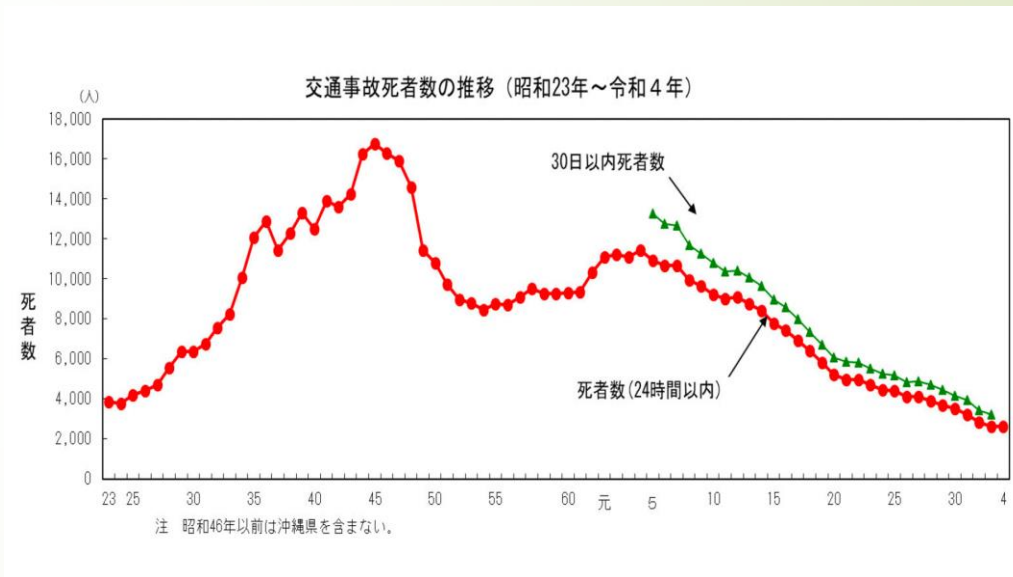
車の保有台数が増え、交通事故死は増加が見込まれたが、死者数は平成～令和にかけて低下しています。

自動車保有台数：昭和45年1653万台 令和2年は8208万台  
交通事故死：昭和45年16,765件 令和2年2,839件  
自動車が5倍に増えたのに、交通事故死は6分の1にまで減った！！



普及台数は1.032台... 自家用乗用車の世帯あたりの普及台数をさぐる(2022年版)

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/4be632c4f542f3bf283e6ea2248d95cb129707ce>



普及台数は1.032台... 自家用乗用車の世帯あたりの普及台数をさぐる(2022年版)

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/4be632c4f542f3bf283e6ea2248d95cb129707ce>

**交通事故が努力で減らせたのなら、孤独死だって減らせるはず！！**

# 孤独死をなくすため、困った時「助けて」と声をあげられるつながりを作りたい つながりを育むためのとりくみ

## つながりや交流の拠点となる居場所サロンの運営

居場所サロンでカフェや交流会を推進し、誰もが安心して集まれるコミュニティの基盤としていきます。



## 携帯電話やLINEを使ったつながりの構築

携帯電話やLINEを使って連絡を取り、グループへの参加を通じて支援者や仲間とのつながりを作ります。



孤独死ゼロアクションのLINE登録はこちら  
(オープンチャット)



## オンラインサロンの開催

やどかりサポート鹿児島は、鹿児島市をホームグラウンドにしたNPOですが、遠方にお住まいの方のためオンラインサロンを提供した仲間とのつながりの機会を供します。



## IOTを使った見守り機器の導入

ご高齢だったり障害があったりして携帯電話を使えない方のため、プライバシーが確保できるセンサーなどIOTを使い見守りを行います。





# ご寄付のお願い

居場所サロンの運営や、コミュニティ活性化には、皆様からの温かいご支援が必要不可欠です。よろしければ是非われらの活動を応援していただければと思います。

## 口座からのご寄付

下記口座に寄付金をお振込みください。

振込口座：鹿児島銀行 本店  
口座種別：普通  
口座番号：3219047  
口座名義：特定非営利活動法人 やどかりサポート鹿児島  
理事長 芝田 淳  
トクヒ) ヤドカリサポートカゴシマ  
リジチョウ シバタ ジュン

## クレジットカードでのご寄付

以下のページからクレジットカードにて決済が可能です。



やどかりサポート鹿児島「孤独死ゼロアクション」

[https://congrant.com/credit/form?  
project\\_id=6337](https://congrant.com/credit/form?project_id=6337) :





**Facebook**

<https://www.facebook.com/yadokarisupport/>



**やどかりサポート鹿児島メインページ**

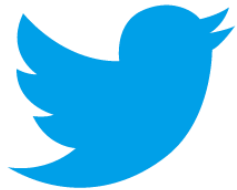
<https://npo-yadokari.jp/>



**終わりに...**

やどかりサポート鹿児島では今後もブログやHPから情報発信を行っていきます。  
よろしければ是非お友達になって下さい。

**本日はどうもありがとうございました。**



**Twitter**

@NPOYADOKARI

<https://twitter.com/NPOYADOKARI>

# 注目されるやどかりの活動

## 2022年度受賞やメディアへの掲載

SUUMOジャーナル  
(2023年2月13日)



大手メディアリクルートの不動産ニュースで、やどかりの地域ふくし連帯保証や、互助する暮らし「やどかりライフ」が取り上げられました！

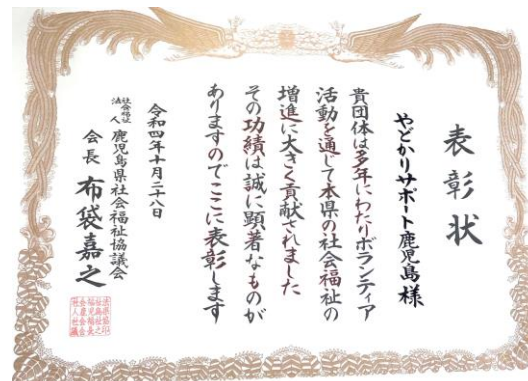
MBC賞  
(2022年10月7日)



経済や社会・文化などで鹿児島への貢献が期待される団体や個人に与えられる賞です。

共生社会の実現に大きく貢献したことが評価されました。

鹿児島県社会福祉協議会  
会長表彰  
(2023年2月13日)



県のボランティアセンターに登録の団体の中から、福祉分野の活動に功績が特に顕著な団体が表彰される賞です。

広報きりしま  
(2022年5月号)



霧島市の広報誌「公報きりしま」で「福祉相談センターやどかり」で活躍しているピアサポーターさんのことを取り上げていただきました！